

第2学年「家庭総合」学習指導案

比叡山高等学校

教諭 吉川紘永

1. 単元名 「教室で使うパッチワーククッションを作ろう～つくる責任つかう責任～」

2. 単元の目標

○綿花の生産背景や布素材の特性、大量生産・大量消費が生活に及ぼす影響について理解し、布や綿などの資源を大切に扱おうとする視点をもつことができる。また、パッチワーククッションの制作に必要な型紙作成・裁断・縫製・仕立てなどの技能を身につけ、生活で実際に活用できる実用的な作品を丁寧に作ることができる。
(知識及び技能)

○布の柄や色、素材の組み合わせを自ら考え、用途やデザイン意図に合ったクッションの構成を工夫して制作することができる。また、持続可能な消費生活に向けた自分の考えを表現することができる。
(思考力・判断力・表現力等)

○制作過程において試行錯誤しながら積極的に取り組み、資源を大切に作る姿勢をもち、学習に前向きに取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、日常で身近に使われる「クッション」を教材として取り上げる。小さな布をつなぎ合わせてつくるパッチワークは、もともと端切れ布を無駄にしないために生まれた生活の知恵であり、資源を大切に扱うための手法の1つである。また、クッションの中に入る綿素材は綿花の栽培に大量の水や労力を必要とする資源であり、綿を大切に扱うことは環境・労働・社会の問題と密接に関わる。これらの素材の背景を理解し、実用品として教室で使用できるクッションを制作することで、ものを大切にしようとする姿勢を身につけ、持続可能な消費生活を考えられるようにした。

(2) 生徒観

生徒たちは、既製品を簡単に購入できる環境の中で生活しており、ものづくりの背景や素材の価値に触れる機会が少ない。一方で、「自分らしさを表現したい」「自由に作りたい」という思いは強く、ものづくりに対して前向きな姿勢をもつ生徒が多い。また、「捨てる／新しく買う」というサイクルが当たり前になっている生徒も見られ、資源の有限性や環境問題について十分に自覚しているとは言いがたい。

本題材は、実際に生活で使用できるクッションを制作することで、「自分が作ったものだからこそ大切にできる」という実感を伴った学びへと繋げる目的がある。また、布の再利用や綿の価値を知ることは、資源に対する認識を深め、消費活動を見直すきっかけになると考えている。

(3) 指導観

本単元では、単なるものづくりの技能習得にとどまらず、生徒が「なぜ作るのか」「なぜ大切にするのか」という問いに向き合い、日常の消費行動を自ら見つめ直す学習となるように指導することを重視する。綿花の生産背景や衣類廃棄の問題を知ることは、生徒にとって普段意識しにくい資源の有限性を理解する重要な機会となる。また、パッチワークという伝統的な技法は、布を無駄にせず活かしてきた生活の知恵であり、布や綿を「簡単に捨ててよいものではない」と捉える価値観を育む上で有効な教材で

ある。さらに、教室で実際に使用するクッションを制作するという実生活と結びついた学習を通して、自分に必要なものを自ら作り出す喜びや、手をかけたものを大切にしようとする感覚を体験できるようにする。制作活動では、生徒一人ひとりが自分のこだわりを表現できるよう布選びやデザインの自由度を確保し、個性を尊重した指導を行う。また、技能習得においては基礎・基本を段階的に指導し、生徒が「できた」という達成感を積み重ねられるように工夫する。単なる作業ではなく、創造的に工夫しながら取り組めるよう支援することで、学習への意欲と主体性を高める。最終回では、互いの作品を鑑賞し良さと工夫点を言語化する活動を取り入れることで、他者の価値観を尊重し合う態度を育成する。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- 有限性：本当に必要なものだけを購入し、限りある資源を大切にし、持続可能な社会の実現に向けて消費行動を考えることができる。
- 連携性：男女共同参画社会が目指されるように身の回りのことは男女ともに担うものであることを認識し、より良い消費生活の実現を考えることができる。
- 責任性：消費者の権利と消費者の責任を理解した上で、消費者として、持続可能な未来を作るという自覚を持ち、行動に移すことができる。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- 批判的に考える力：現代の大量消費・大量廃棄に対する批判的意識を培うとともに、より良い解決策を考える。
- 未来像を予測して計画を立てる力：これからの消費生活において、本当に自分にとって必要な物であるかを判断し購入ができる。
- 進んで参加する態度：自らの生活と照らし合わせながら、より良い生活空間を考え、物の所在の把握や、整理整頓など行動に移すことができる。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

- 世代間の公正
今と同じように豊かな暮らしを未来に残すためには、一人ひとりが消費行動を見直すとともに、ものに愛着を持ち、大切に使うことが求められる。
- 幸福感に敏感になる 幸福感を重視する
自分でこだわりを持って作った作品に愛着を持ち、大切に長く使おうとする心を育む。

・達成が期待される SDGs

- 12 つくる責任 つかう責任
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正を全ての人に


4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 大量生産・大量消費が生活に与える影響について理解している。	① 消費生活の問題点に気づき、解決策を自分の言葉で表現している。	① 学習内容と自分の生活を結びつけ、資源を大切にする行動や持続可能な消費生活に向けた改善について、自らの考えを持って行動している。
② 型紙作成・裁断・縫製・仕立てなどの技能を用いて、こだわりを持った作品を作っている。	② 自分自身の思い描くデザインを図案に起こしている	③ こだわりを持って取り組んでいる。

5. 単元の指導計画（全16時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 2	<p>○大量消費の現状と衣類廃棄の問題について知る</p> <p>○綿花の生産背景・環境負荷について知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">彦根市の綿花農家さんのお話</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーである綿花農家さんから直接お話を聞き、綿花栽培の苦労や思いを知る。 ・わたくり体験を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ザ・トゥルーコスト」を部分的に視聴。 ・綿花を作る時にかかる労力とコストを意識させる。 	<p>△</p> <p>ア①</p> <p>イ②</p> <p>ウ①</p>
3 4 5～6 7～13	<p>○パッチワークの概要説明図案作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30cm×30cmの図案を考える。 ・何度も繰り返し納得のいくまで図案のやり直しをしてみる。 <p>○型紙作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図案通りに方眼用紙で図案を書き、鋏で切り取る。 <p>○布選び・印つけ・裁断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布の裏側に型紙を使って印付けをする。外枠1cm外側を裁ち鋏で裁断する。 ・1つ1つ丁寧に作業を行う。 <p>○パッチワーク30cm×30cm製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な縫い方を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パッチワークのデザイン本や先輩たちの過去の作品を提示し、創造性を膨らませられるよう努める。 ・丁寧に作業するように促す。 ・印つけと裁断こそ作品の完成に大きく影響することを伝える。 ・玉結び、玉留め、返し縫い、なみ縫い動画を作成し、生徒たちが自由にipad上でみることができ教 	<p>△</p> <p>ア②</p> <p>イ②</p> <p>ウ②</p>



<p>14～15</p>	<p>○本体布に縫い付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体布にパッチワークを縫い付ける。 <p>○ミシンで両脇を縫い付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの基本的な使い方を習得する。 <p>ボビンの作り方／上糸の掛け方／下糸の掛け方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成／レポート作成 	<p>材を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視しながら、つまづきのある生徒に作業指導を行う。 ・手縫いかミシンの選択ができることを伝える。 ・ミシンの使い方について動画を作成し、動画を使いながら説明を行う。 <p>・次回の展覧会に向けて、こだわりポイントをまとめるよう指示する。</p> <p>・こういった展示にするのか自ら考えるよう促す。</p>	
<p>16</p>	<p>○クラス展示会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のこだわりの詰まった作品を見て、それぞれにコメントを書く。 ・クラスメイトからのコメントを受け取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの作品にコメントを書くよう指示をする。 	<p>△ ウ①</p>